

如願寺 真言宗 摂津国三十三ヶ所霊場、三十二番札所、八十八ヶ所霊場、三十七番札所
本尊 聖観音立像（木造彩色） 平安前期 大阪府指定有形文化財（毎年8月9日・10日のみ公開）

霊峰山 如願寺縁起

このあたりの地名は「喜連」と書いて「きれ」と読む。古事記伝にも出てくる古い地名である。『住吉の東一里許に喜連村というあり、河内の境なり。昔は河内に属して石葉、河内国伎人郷とある処なるを久礼を訛って喜連というなり』と。

如願寺も当初は「喜連寺」として創建された。32代用明天皇の時代、聖徳太子が物部守屋を討伐したとき、仏法興隆奇端の地として当寺を建てた。西には阿弥陀寺、東には弥勒寺、南に薬師如来をまつる湯谷寺、そのほか別院として橋本寺、松元寺、善法寺、高野寺を擁する近郷無比の大伽藍であったという。

その後星霜を経て堂宇は縮小したが、230年後の弘仁八年、弘法大師が高野山巡錫のみぎり、この霊場に詣で、その衰退を悲嘆され、御杖を立てそれが朽ちないうちに再建の願を立て上京し、勅許をこうむって来てみると杖は植木の如くなっていた。ゆえに杭全の荘と名づけ、弘仁十一年ついに荘厳なる諸堂を再建し、このとき如願寺と寺名を改める。弘法大師は脇土不動明王、毘沙門天を御自作安置し鎮守堂を建立したという。「大永七亥年（1527）九月十八日漢文略記」兵火震災にあつて諸堂は消失したが、現在の本堂は享保年間（1716～1735）に實圓によって再建された。